

会計決算を認定

歳出43億4173万5千円

3千円

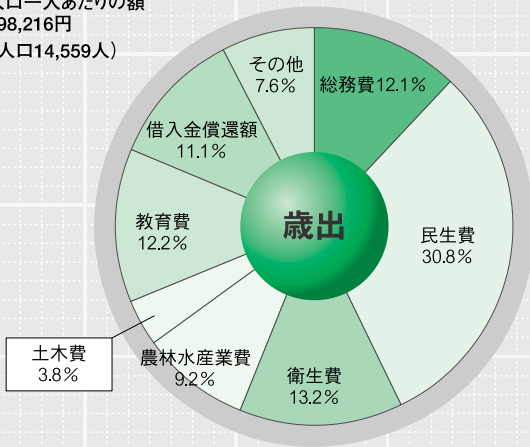
このうち20年度ヘクリーク防災事業の費用262万5千円と水道の第1期拡張事業に伴う水道会計への出資金470万円を平成20年度に繰越す



循環センター「くるるん」関連設備(液肥散布車)

歳出

人口一人あたりの額
298,216円
(人口14,559人)



科目	決算額	前年度との比較
総務費	5億2400万7千円	△4.4%
民生費	13億3721万1千円	6.0%
衛生費	5億7460万9千円	△53.2%
農林水産業費	3億9896万2千円	△36.8%
土木費	1億6353万5千円	△3.5%
教育費	5億2975万円	△11.0%
借入金償還額	4億8097万円	14.1%
その他	3億3269万1千円	△8.9%
合計	43億4173万5千円	△16.9%

(注) △はマイナス

委員会の審査報告(概要)

第1 決算審査特別委員会(総務常任委員会)

■ 町税の滞納額は総額7263万4796円で滞納者数434人、現年度滞納額では、2006万4991円、滞納者数は162人となっており、自主財源に及ぼす影響は非常に大きく、税の公平さからも滞納者に対し厳しい態度で対処し、効率的な徴収の強化充実を課題として徴収に全力を尽くされたい。

■ 町債と債務負担行為の総額は、49億4896万5千円で町の一般会計予算の1年分に匹敵するが、臨時財政特別債・減税補てん債・臨時税収補てん債・臨時財政対策債の19年度末残高17億6875万3千円は、後年度100%地方交付税で交付され、実質31億8021万2千円となっている。

■ その他にも町債に対して交付税の措置があり、全体の実質債務は、財政指数並びに国の方針によって変動はあるが、約22億円程度ではないかと思われる。

■ 町債発行は、4億3826万6千円で、前年度より3億8003万7千円減少しているが、今後も行政改革に積極的に取り組まれ、健全財政に努力されたい。

■ 19年10月より着手された入札制度改革は、指名選定における恣意性の排除と、入札における競争性・匿名性の厳格な確保を徹底した結果、下半期落札率84%という成果が得られ、一定の評価ができる。なお、今後も透明性・競争性の更なる向上を目指す、また同時に価格と技術両方の優れたものを調達できるような制度となるよう不断の改革を期待する。

■ 電算処理業務については、平成21年度より電算システムのリプレース(入れ替え)が計画されており、更なる共有化の推進を図りコスト削減に努められたい。

■ 西鉄八丁牟田駅利用促進協議会が八丁牟田駅西側に、大木町と西鉄が保有する土地を活用し、駅前駐車場として整備し運営しているが、駅前開発事業として用地を取得し、かなりの年月が経過していることから、早急に八丁牟田駅開発に取り組みよう要請する。

第2 決算審査特別委員会(文教厚生常任委員会)

■ 乳幼児医療対策費、重度心身障害者医療対策費、母子家庭等医療対策費の医療費の支給額は微増の傾向にあり、疾病の早期発見及び健康管理の向上と福祉の増進をなお一層図られたい。

■ 高齢化が今後急速に進む中、介護予防や独居老人等への対応のため、事業の効果的な運営に取り組み、住民の福祉向上に、より一層の努力をされたい。

■ 保育料の滞納は、平成15年度から平成19年度決算時まで累計で161万9千円